

2017年04月21日

【コラム①】イスタンブール・チューリップ・フェスティバル

アジアとヨーロッパを跨ぐ街イスタンブール。この街に春、欠かせないモノといえば「チューリップ」です。市内の至るところでチューリップが咲き誇り、壮大な街を華やかに彩ります。現在「イスタンブール・チューリップ・フェスティバル」が4月1日～30日の日程で開催中。「イスタンブール チューリップの時 (Istanbul' da Lale Zamanı)」のスローガンのもと、市内8カ所の会場が多くの人で賑わっています。日本人にも馴染みの深い赤、黄色のスタンダードなチューリップから、変わった色・形のチューリップまで、そのカラフルな景色は飽きることがありません。

チューリップのみならず、伝統音楽のコンサートやエブル（マーブリング）実演などトルコ文化に触れることができる催し物も用意されています。

世界遺産の旧市街歴史地区にあるスルタンアフメット広場では、1,731平方メートルに56万4千本からなる世界で最も大きなチューリップ絨毯を見ることができます。(4/21-4/30の期間)まさに圧巻！チューリップ絨毯から左右を見上げると、イスタンブールを代表するアヤソフィアとスルタンアフメット・モスクも間近にそびえ立ち、「イスタンブール」「春」というワードを存分に味わうことができます。

もう一つ会場をご紹介します。新市街郊外にある「エミルギャン公園」。ボスポラス海峡沿いに位置する広大な公園です。なんと、ここでは160品種、300万本のチューリップを楽しむことができます。公園の中にはオスマン帝国時代の邸宅があり、現在はレストランやカフェとしても使用されています。チューリップを眺めながら優雅に朝食もいかがでしょうか。

ところで、チューリップの原産地はどこかご存知ですか？実はトルコのアナトリア地方も原産地と言われています。トルコの国花に指定され、トルコ国民には特別な花なんです。日本人にとっての桜のような位置づけですね。中でも現在ではアナトリア地方中央部のコンヤが、トルコのチューリップ生産量の90%をシェアしています。

歴史も古く、オスマン帝国時代にチューリップ栽培が盛んになります。16世紀頃ヨーロッパへの輸出が始まり、17世紀にはヨーロッパでチューリップブームが巻き起こりました。トルコでは、モスク、陶器やタイルなどにもチューリップがモチーフとして使われています。

トルコの人々にとって欠かせないチューリップ。春にトルコへ訪れる方はぜひ色とりどりのチューリップもご覧になってみてください。

